

令和6年度第2回障害者差別解消支援地域協議会	資料3-1
令和7年3月27日	

所沢市に寄せられた相談と対応等について

	不当な差別的取扱い	合理的配慮の不提供	どちらにも該当しない※
平成 30 年度 (条例施行)	3	0	0
平成 31 年度 (令和元年)	0	3	8
令和 2 年度	0	0	3
令和 3 年度	2	1	2
令和 4 年度	3	3	1
令和 5 年度	2	1	2
令和 6 年度 (2 月末時点)	1	1	3
合計※	11	9	18

※「どちらにも該当しない」は環境の整備、接遇への苦情や意見のすれ違い、コロナ関連等、結果的には不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供には当たらないものの、相談者はいずれかに該当すると考えて相談されたものです。

※1度の相談のみで完結したケースや、軽微な事例等は含めていません。

【不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供に関する相談先】

所沢市 福祉部 障害福祉課

こども未来部 こども福祉課

健康推進部 健康管理課 こころの健康支援室

所沢市基幹相談支援センター（社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会）

所沢市委託相談支援事業所（3事業所）

- ・社会福祉法人 藤の実会 「さぽっと」
- ・社会福祉法人 皆成会 地域生活支援センター「こみゅーと」
- ・社会福祉法人 所沢しいのき会 地域生活支援センター「所沢どんぐり」

※ 所沢市基幹相談支援センター及び所沢市委託相談支援事業所については、その仕様書に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）第14条に規定する相談窓口として受け付けた相談に適切に対応すること。」との記載が明記されています。また「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」第13条にも同内容の記載があります。

また、基幹相談支援センター及び委託相談支援事業所を運営する社会福祉法人には、市の出前講座を複数回行うなど、障害者差別に関する知識を深めて頂いており、相談件数は少ないですが、相談の受付は問題なく行うことができます。

【おおまかな対応の流れ】

- 1 相談者が前ページの相談先に相談する。
- 2 この時点で不当な差別的取扱い又は合理的配慮の不提供に該当するか判断。
 - －① 該当する場合は相談者の希望を聞き、相手方へ事情を聞く。
 - －② 該当しない場合は相談者の話に耳を傾け、出来る限りの対応を行う。
 - －③ 判断ができない場合等は障害福祉課へ情報提供し、判断を仰ぐ。
- 3 ここまでの経過について所沢市障害者差別支援地域協議会と情報共有する。
- 4 相手方の言い分により、不当な差別的取扱い又は合理的配慮の不提供に該当するかどうかの最終的な判断。
 - －① 該当する場合はお互いの話をすり合わせて、解決に向けた調整を行う。
 - －② 該当しない場合は相談者の話に耳を傾け、出来る限りの対応を行う。
 - －③ 判断ができない場合等は障害福祉課へ情報提供し、判断を仰ぐ。
- 5 ここまでの経過について所沢市障害者差別支援地域協議会と情報共有する。
- 6 双方が納得できる着地点を見つけ、建設的な対話から、解決に導く。
 - －① 解決に至らない場合、社会的障壁の除去に関するあっせん調整委員会の
手続きに進むこともできる。
 - －② 解決した場合も、相手方への出前講座の実施などの指導に努める。
- 7 顛末を所沢市障害者差別支援地域協議会と情報共有する。

※相手方が自治体である場合や、他市の事業所で起きた事例、事業所は所沢市だが相談者が他市の在住など、相談内容により対応は異なります。